

平成25年(2013年) 12月2日(月曜日)

「地球憲法」を考える

「文化の世界地図」を基に独自のグローバル教育を提案する渥美育子氏による授業が11月8日、東京都立忍岡高校(浦部万里子校長、生徒675人)の1年生全員を対象に行われた。一日限りではあったものの、6時間かけて自分たちの生きる地球に真剣に向き合った生徒たち。授業後のアンケートには、授業を通して得られた新たな発見や将来に対する決意がこぼれ出していた。

**東京都立
忍岡高校**

「先生に『今地球が危機に面していること』を書いてと言われて、七つくらい出してきました。それだけ問題をたくさん抱えているんだと思いました。(中略)民族や宗教、言葉が違うので、みんなが納得のいくルールを作った、私たちが社会人になったころには環境破壊や戦争が少しでもなくなってくればいいな、と思います」「何も考えずに行動しても、考えるだけでもだめで、やっぱり考えて行動に移すことが大切ななと思いました」「もっと地球に関心を持って、今日学んだことをさまざまな場面で生かしたいと思います。『今』や『自分』のことだけでなく、『地球』『未来』にも視野を広げたいです」。

紛争、環境破壊…課題と向き合い



外部講師を招き グローバル教育

教科横断の学び
渥美氏が提案するグローバル教育は、世界を舞台に時間と空間を行き来しながら、地球が抱える

さまざまな課題に向き合を考えていく。プログラムには、世界史や地理はもちろん、数々の偉人はどのような判断を下したのか、また、国によって価値判断の基準が異なることよって同じシチュエーションでも、それぞれ取る行動が違うこと、などを確認しながら、これからの地球社会を担う自分たちが地球上に生きる全ての人々を対象として、地球が抱える課題を考えるように。最後には、全員が一緒に「地球憲法」の策定に携わり、その思いを互いに発表し合った。

初め、講師の話を受け身がちに聞いていた生徒も、授業が進むにつれて徐々に自分のこととして参加が実現した。

授業後の感想文には、ほとんどの生徒が最も印象に残ったこととして、授業冒頭で紹介された環境サミットでのセヴァン・スズキ(当時12歳)のスピーチを挙げた。と同時に、彼女同様、「行動力」や「好奇心」「広い視野」を持つグローバル人材へと一歩踏み出した生徒の決意も彼ら自身の言葉でこぼれ出していた。

渥美氏は、「最後の生徒の発表を聞いて、たった1日の授業でも、われわれ大人が考えていた以上に生徒の心にグローバルな感覚が養われたことを実感できた」と授業後の手紙を語っている。

キャリア教育にも
昨年度、都の副校長研究協議会での渥美氏の講演内容に共感した難波伸一副校長は、このグローバル教育について「本校でも海外との国際交流を行っているが、どうしてもその成果は実際に交流した一部の生徒に限られてしまう。しかし、このプログラムは校内で多くの生徒を通して学んだことを自らの言葉で条文にまとめる生徒たち。教室が生徒の活気であふれた

忍岡高校 ☎03・3863・3131
グローバル教育 ☎03・5422・7607